

附属機関等の名称 会議概要

- 1 審議会名.....第3回安曇野市都市計画審議会.....
- 2 日 時.....平成19年2月23日 午前 10 時 00 分から午前 11 時 15 分まで.....
- 3 会 場.....安曇野市豊科ふれあいホール.....
- 4 出席者.....岩淵委員、竹岡委員、金森委員、山田委員、斉藤委員、勝野委員、塚田委員、水谷委員、
下里委員、藤澤委員、矢澤委員、丸山委員、降幡委員、藤原委員、小林委員、宮下委員、
田野尻委員(代理北村室長)、笠井委員.....
- 5 市側出席者.....都市建設部：久保田部長、安藤係長、鎌崎主査、中田主査、山田主査.....
- 6 公開・非公開の別.....公開.....
- 7 傍聴人.....1人.....記者.....0人.....
- 8 会議概要作成年月日.....平成19年2月28日.....

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
 1. 開 会 (久保田部長)
 2. あいさつ (藤澤会長)
 3. 土地利用検討に関する資料説明(事務局より説明)
 4. 閉 会 (藤澤会長)

意見概要

- アンケート結果でも、農地や自然について誰もが大切だと思っているが、バランスのとれた開発というのは必要なことである。
どうしても残さなくてはいけない農地を先に決めていくという形が良いのではないかな。
- 農地を売る人にはそれぞれ事情がある。これから規制をかける場合に、総論賛成、各論反対ということになる。農業が厳しい現状で農地を残せと言われても大変なことである。
- 山沿いの遊休農地については土地利用以前の問題だと思う。行政と関係者で活路を見出すことが大事だと思う。農業について切迫した方もいる。交換などの手段も配慮しながら土地利用を考えて、公平に扱う必要がある。
- 市民の考える土地利用のルールやしきみの中で、中心市街地不要論がある。これの内容はなにか。中心市街地、既存の商店街へ今後桎入れをしない、という話になると、大店舗におされ今まで営業してきた商業者を見捨てることになる。その辺も踏まえながら検討を。
→ 中心市街地不要論というのは、改めて投資する価値がどれだけあるかという話で、中心市街地がいらないという極端な話ではなく、既存の地域が廃れることがない程度の商業地というのは維持していこうというもの。
- 安曇野の景観を守るためにも農村地域、農地が必要だとは言っているにも実際に個人がこれを資産として活用したいとき、線引きされたら困ると言うことが結構聞かれる。
- 資料の内容によって、今後の方向が大きく変わってしまうのではないかな。
アンケート調査の、有効回答数の中で非農家が多い、多くの土地をもっている農家の意見がアンケート結果に反映されていない。
法制度の説明にしても、誤解を招かないよう行政に気を付けていただきたい。
農振法があるので、それによる土地利用を。
市民の内、土地を持っている方たちの6割位の意見が反映されるように。間違っただけのものについては、委員として反対していきたい。
- 制度を理解してアンケートに答えているという人はごく一部だと思う。線引きには反対である。
農業を守ることは大変である、こういった形で農業を残してもらうような体制をとるか現実的な言葉で考えていかなくてはいけないと思う。

- 構造改善の事業をおこなった後、農道舗装した道路が走り良く、裏道として車の通行が多い。そういうことから開発がおきるのではないか。大事な環境を保全していくための農業地域の中の方針は、どういう考え方で進められていくのか。営農環境についても、土地利用の中でも考えてはどうか。
- 交通の便が良いと都市計画の中で規定する、そうすると基本的に景観だとか環境だとか眺望だとか全部失われてしまう。
- 安曇野の景観を考える時、特に豊科の中央通りの電柱と電線の醜さを優先して考える必要があるのではないか。
- 個人的には線引きが良いと思うが、今ある3つの規制のメリット、デメリットを分析して、住民に理解していただき、今後土地利用についての検討を進めてもらいたい。
- 安曇野市の将来像を十分検討した中で、方向付けをしていく必要がある。一定の条件を満たしているから良いとすると、乱開発に繋がり、市民の理解が得られない。本当に安曇野市にふさわしい一つの型を出していただきたい。